

市長の やまがた自慢

「山形和傘」

城下町である山形市には、いまでも数多くの伝統工芸が残っています。山形で和傘が最初に作られたのは寛政元（1789）年といわれます。その後山形藩主となった水野家が制作を奨励し、盛んに作られるようになりました。明治維新後にも産業として発展し、一時は百軒を超え東北一の産地となりました。

その後、洋傘の普及に伴って和傘職人の数は減少し、その伝統の技を受け継ぐのは市内で唯一、古内清司さん（古内和傘店）のみとなりました。このまま途絶えてしまう懸念もありましたが、市内在住の横山純子さんが古内さんに弟子入りし、技術を習得されました。古内さんが亡くなられた現在、その技を受け継いで制作に励んでおられます。

一本一本が完全な手作り、竹の骨組みに和紙を重ね、油を引いて仕上げる番傘や蛇の目傘には、洋傘にはない風情があります。特に番傘は雪国である山形の気候を考え、骨の数が52本と多く、頑丈でサイズも大きいのが特徴です。また、山形花笠まつりに欠かせない「踊り傘」も横山さんが製作しています。



山形市長 佐藤孝弘

Q1 YAMAGATA CREATIVE CITY CENTER Q1

やまがたQ1 かわら版 vol.10

集う・会おう・つながる マルシェイベント「Q市」 ひとつものが行き交う、ひらかれた時間

やまがたクリエイティブシティセンターQ1で定期的開催されるマルシェイベント「Q市」は、Q1の前庭を中心に、その時々テーマに合わせた多彩な出店者が集い、食・雑貨・古本・古着・植物など、さまざまな魅力を楽しめる恒例イベントです。昼のデイマルシェや夜のナイトマルシェなど多様な形で展開し、訪れる人々との出会いや交流が日々生まれています。今年度も、個性豊かな出店者とともに、心地よい時間と場をつくっていきますので、どうぞよろしくお願ひします。



2026年1月12日[月祝]に開催した、「もちつき大会」の様子よ

やまがたクリエイティブシティセンターQ1
本町1-5-19(第一小学校旧校舎)
開館:午前9時～午後10時 休館:年末年始
☎615-8099 Eメール:hello@qichi.jp

山形Q1 最新情報はQ1ホームページへ

メールで読める
Q1ニュースレター
登録はこちら



SUKSK 生活のすすめ

「糖尿病を知りましょう」

山形市保健所長 山下英俊

糖尿病は生活習慣病といわれます。発症しても自覚症状に乏しく、自覚症状がでる頃には病気としては進行していることも多くあります。糖尿病が怖いのは血管が壊れることです。血液中の糖分が多くなり、そのため血管に障害が起きてきます。体中に血管はありますから、多くの多様な合併症がでます。脳卒中、心筋梗塞といった大きな血管の障害による疾患や、網膜症、腎症、神経症といった小さな血管の障害による疾患などがみられます。例えば、網膜症は日本で視力障害を起こす方の約1割の原因となっています。また、腎機能が低下して人工透析を受ける方の原因のトップが糖尿病性腎症です。健康で長生きするためには糖尿病を予防すること、糖尿病になったかどうかをいつも健康診断でチェックし、さらに糖尿病になったら早期に受診して合併症が進行しないように適切な治療を始めることが大切です。

糖尿病は30歳代から発症しはじめ、40歳代以降患者数が増加していきます（厚生労働省国民健康・栄養調査による）ので、40歳から受診できる特定健康診断を受診してください。特定健診には、保険者からの補助があります。山形市の国保の方は、特定健診を無料で受けることができますのでぜひ活用してください。

さらに、現在糖尿病ではない方は糖尿病を予防することも重要です。たんぱく質、炭水化物、脂質、野菜などのバランスの取れた食事をゆっくり食べること、ご自分のライフスタイルにあわせて適度な運動をすること、禁煙、十分な睡眠、ストレス管理が重要です。これらをバランスよく進めるのが山形市で推進しているSUKSK生活です。市民の皆様が楽しくSUKSK生活に取り組むための健康ポイント事業SUKSKアプリもごさいますので、ご活用ください。